

熊本県立人吉高等学校(全日制) 令和6年度(2024年度)学校評価表

1 学校教育目標

教育綱領「礼節」「勤労」「進取」のもと、人吉球磨地域にある普通科の高校として、心身の自己研さんに励み、これからの予測困難な時代に、郷土愛とグローバルな視野をもったリーダーを育成する。また目標達成に向けて挑戦する力やリーダーとしてふさわしい行動力を発揮し人吉球磨地域の課題解決にも積極的に関わり復興と発展を担う人材を育成する。

そのため、世界的な視野に立った学びや探究的な学びに取り組むとともに、生徒の幅広い進路実現に向けて、基礎から発展的な内容まで総合的な学力を身に付け、自ら考え主体的に取り組む教育を目指す。

また、国の「新時代に対応した高等学校教育改革推進事業」の『創造的学習方法実践プログラム』の取組の成果を生かし、ICTを活用した先進的な学びを推進し、国内外の大学や研究機関、企業等と連携して、更なる発信力や論理的思考力の育成とともに、地域課題解決のために探究的学習を充実させ、人吉球磨地域をはじめ世界ともつながる力を育む学びを展開する。

2 本年度の重点目標

- 1 人吉球磨地区ライジング構想とBYHプロジェクトの推進により、3つの力「知識・技能・体験力」「論理的思考力」「発信力」の養成に努める。
- 2 進路指導の充実を図り、進路の多様性を認識した指導を行う。
- 3 時代の変化に応じた生徒指導、部活動指導を行い、学校行事等の活性化・魅力化に努める。
- 4 人権教育、主権者教育、消費者教育と地域との連携を推進する。
- 5 校務改革、働き方改革を進めるとともに、人材育成を図る。

3 自己評価総括表

評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	広報活動の充実	学校の教育活動及び生徒の活躍の様子の発信	保護者アンケートにおいて「学校からの情報発信が充実している」と9割以上が回答する。	ホームページの更新、人高ニュース、広報誌の発行、学校要覧やポスターの作成、中学校や学習塾への働きかけを行う。オープンスクール、文化祭を通じて学校のPR活動を活性化させる。	B	保護者アンケートでは「HP等を活用して充実した情報発信をしている」の項目において高評価の値が86%となった。本年度も中学校訪問や保護者向け説明会など活発に行った。オープンスクールは生徒主体に運営するよう改善し、アンケートも好評価であった。今年度はホームページについても内容や構成を見直し、より見やすく、情報が整理された。
	働き方改革・業務改革	業務の効率化のためICT活用による環境整備	生徒と向き合う時間の確保のため、ICT活用により従来業務の効率化を図る。	整備されたICT機材の保守管理、環境整備を行う。自動採点システムの導入が円滑に進むよう、学校組織全体で連携する。	A	一人一台端末のバッテリー交換が、円滑に進むよう取り組んだ。また、自動採点システムの導入が効率よく校内業務に浸透するよう綿密な計画と職員に対して研修を行った。多くの教科において活用が進んだ。
		効果的な業務遂行のための職員の意識改革	4月から12月の期間で一人当たり10日以上の子休取得を目標にし、時間外勤務時間を昨年度の1ヶ月の平均時間を3時間縮減する。	職員アンケートにより教職員自身が自らの働き方を意識する。衛生委員会を活用して情報共有と改善策の提示を行う。	C	7限授業を週2日化するなど働き方改革を進めたが、4月から12月の期間で一人当たりの子休取得が9.26日、時間外勤務時間の1ヶ月平均時間が昨年度は35.32時間、今年度は12月時点で38.14時間となり、目標を大きく下回った。

学力向上	授業改革	カリキュラムマネジメントと評価システムの構築	生徒に時間を返すことを目標に教務が携わる部分を必要に応じて精選する。これまでの観点別評価実践を踏まえて、評価の規定の更新を行う。	週時間を32時間に減じるため、教科間の調整と検討を重ねていく。生徒の資質や能力を適切に評価できるよう各教科の実情を集約し、評価の客観性と公平性を高める。	B	各教科と調整しながら80回生以降の生徒は週時間32時間に減じる。また、79回生も3年次から32単位に減じることでも了承された。 2学期の評価時期に合わせて各教科に意見を求めた。現在意見集約中であり、3学期中に必要部分において更新の予定である。
		I C T運用力向上と授業実践	I C T支援員と連携し効率的で効果的な職員研修の充実によって、I C T運用力を向上させるとともに、特定推進校としての授業実践を積極的に公開する。	特定推進校として現場での活用にも有効な即効性のある内容に絞り、年間4回の職員研修を実施する。	A	学校運営上必要な時期や需要に応じた内容の研修を年4回と、自動採点システムの全体研修を実施した。職員一人ひとりのI C Tスキルや安定的なI C T運用力の向上、業務効率化に寄与した。
	創造的学習方法の実践	探究的な学びの推進	地域課題解決に向けた探究活動を通して視野を広げ新たな社会（Society5.0）で必要な資質・能力の育成を目指す。アンケートで有用性があると回答した生徒の割合を7割以上にする。	計画に従い国内外の大学や研究機関、企業等と連携し多様なプログラムを用意して推進する。B Y H人吉・球磨もやいすとプログラム（学校設定科目）を実施する。検証を行い変更にも柔軟に対応できるようにする。	B	生徒アンケートで「B Y Hや探究活動で積極的に地域とかかかわっている」と肯定的な評価が69%だった。「人吉球磨ライジング構想」（文科省から3年間指定）の最終年度にあたり、11月に報告会を実施、これまでの成果や課題について報告し、運営指導委員やコンソーシアム委員の方々からは高評価を得た。
		クロスカリキュラム（教科横断的）授業の実践	教科・科目の見方や考え方や各教科・科目で育成される資質・能力を探究活動における考えるための技法（思考ツール）として活用できる素地の育成を目指す。アンケートにおいて有用性があると回答した生徒の割合を7割以上にする。	教科の境を超えクロスカリキュラム授業の実施と研究を行う。授業の調査・研究、指導計画及び評価計画の作成、教材の作成を行い6月から2月まで授業を実践し、3月に総括を行う。	B	生徒アンケートでは肯定的評価が84%と3年連続して目標を大きく上回り好評だったことがわかる。今年度はクロスカリキュラム授業の回数が昨年度に比べ微増の状況が反省点として挙げられる。ただし、3学期2月以降に実施を予定している先生もいる。
キャリア教育（進路指導）	進路意識の高揚	進路に関する情報提供	生徒保護者アンケートで「適切に提供されている」などの肯定的な回答を90%以上にする。	道標、進路資料を用いた保護者説明会の充実や文理選択説明会の充実、上級学校に関する入試説明会、オンラインイベント等や奨学金に関す	B	前年度、肯定的な意見は生徒が89%、保護者が83%、職員が94%であったが、今年度、生徒が91%、保護者が84%、職員が100%と向上した。Google Classroomでの配信や保護者説明会、各学年からの連絡等、今後

				る適切な資料の提供をGoogle Classroom等を活用し行う。		も様々な機会を活用し大学のオープンキャンパス情報や東大講座等だけでなく進路探究、進路学習に有益な情報の発信を行っていく。
		キャリア・ポートの活用および地域との協働	生徒保護者アンケートにおいて「校外活動を通して地域と関わっている」などの肯定的な回答を50%以上にする。	地元役場や企業との協働、県内の大学へのフィールドワークへの参加、ボランティア活動、インターンシップや看護体験等を充実させる。Chrom book等で、ポートフォリオを活用した面談や進路指導を行う。	C	保護者の肯定的な回答は38%と昨年比2%減であった。インターンシップや看護等体験に参加した生徒は今年度も一定数いたものの、昨年度と比べ減少した。インターンシップや看護等体験といった就業体験・研修も行い、今後は、キャリア実現につながる地域人材や民間団体の活用を積極的に行っていく。
	個に応じた指導の充実 自主的・自律的に生きる力の育成	月金7限目活用および特Sプロジェクト（難関大希望生徒の進路実現）の推進	生徒アンケートで「学力の向上を実感している」などの肯定的な回答を90%以上にする。難関大希望生徒の進路実現を後押しする。	生徒の自学や補習活動の支援や各教科における教科内研修の充実、担任面談や教科担当者の個別指導への支援と系統化、職員全体の進路指導力の醸成、特S等の担当者会議による対応協議と検討会の周知を行う。	B	生徒の肯定的な意見（84%）と保護者の学力向上に関する項目の値は昨年度と変わらなかった。一方、保護者における家庭学習への意欲的な取組の評価は、前年比0.1ポイント減少した。月・水・金曜の放課後等の時間を活用した低学年次からの学習指導・学力支援等を行っていく。職員全体の進路指導力の醸成として進路検討会の実施は今後も行っていく。3年生の様々な個に対する指導やその工夫の継承も行っていく。
		社会の変化に対応できる資質や能力を身につける	BYH推進と実施内容のさらなる充実化を図り、多様で複層的な学びの機会を与え、主体的に取り組む生徒を増やす。アンケートで有用性があると回答した生徒の割合を7割以上にする。	BYHプログラム（探究活動）やグローバル教育活動、地域との連携活動に重点を置き、生徒が主体的に学ぶ力の育成につなげる。	B	BYHプログラム発表会をはじめとする様々な発表の場において、指導に直接かかわった地域の方々から、生徒の主体的に学ぶ力が付いたとの評価をいただいた。しかし、職員アンケートで「BYHの探究活動が充実してきて、生徒は確実に変容している。」と感じていると74%の回答は昨年度に比べ下がり、評価4が大幅減少で0.2ポイント下がった。
生徒指導	三綱領「礼節・勤労・進取」の精神の涵養と意欲的・主体的に行動する生徒の育成	校則の改定と落ち着いた学校生活	今年度までの校則を現状と照らし合わせて改訂しなければならない点を生徒会・秀麗会と確認する。生徒アンケートで関連質問	「正しい判断力を持つ自律した生徒の育成」を目指し、生徒に対して常にあらゆる場面で自ら考えて行動しなければならないことを集会で何度も伝える。	A	95%（前年93%）が肯定的意見であり、昨年度から上昇している。自ら考え行動する部分を大切に今後も生徒の取り組みを検討する。「校則の見直し」について生徒会・職員アンケートの実施、生徒会との協議2回、秀麗会

			に対する肯定的回答を90%以上にする。	生徒会・秀麗会・生徒指導部で校則見直し会議を夏休み前と3学期の計2回実施する。		代表との協議を実施し12月に生徒総会で内容を全校生徒に報告。1月にクラス検討会を実施し、次年度へつなげたい。また、来年度も同様に「校則の見直し」を行いながら、生徒自身が「校則」の意味を理解し、それに基づいた行動がとれるように指導していきたい。
		自己肯定感の育成	各学校行事における生徒会からのformsアンケートの実施。結果は報告する。	生徒会を中心とした学校行事等の取り組みにできるだけ多くの生徒の意見を聞く機会を作り、学校生活における充実感を高める。	A	アンケートでは「かけがえのない存在」が93%（前年88%）「必要とされている」が94%（前年81%）と上昇している。否定的な生徒もいるので、学校において必要な存在であることを感じられるような学校行事を生徒会と共に実施していく。
	文武両道の推進	部活動・ボランティア活動を含めた全人教育	学年会や顧問会において各部における充実した取り組みを促す。生徒アンケートで肯定的回答を50%以上にする。	リーダー育成のため、部活動代表生徒の研修会を実施する。部活動やボランティアの中心生徒を対象に、リーダー育成講演会を実施する。	B	「部活動」は93%（前年94%）、「ボランティア」は48%（前年46%）が肯定的。リーダー研修は実施しているがそれを活かすためにも次年度はリーダー協議会など、生徒達同士で高めあえる環境づくりに取り組みたい。ボランティアへの意識が伸びていないことは課題である。
人権教育の推進	道徳教育と人権教育の推進	職員の人権意識の向上	アンケートの関連質問において、教職員および生徒の80%以上が肯定的回答をする。	職員研修を実施するとともに、校外人権教育関係行事への参加を促し、人権教育推進委員会を活性化させる。	A	生徒92（前年91）%、職員98（前年96）%が肯定的回答。部落差別講演会、LGBTQ等の人権問題、援助資源マップを活用した生徒支援について職員研修、ハラスメントに関するアンケートを行った。
		生徒の人権意識の向上	アンケート関連項目の、教職員および生徒の80%以上が肯定的回答をする。	人権教育LHR、人権教育講演会を実施する。	A	スマホ安全教室、発達障がい講演会、DV未然防止の講演会、部落差別講演会、進路保障LHRを実施した。生徒92%、職員98%が肯定的回答。 （「人権意識の向上に役に立つ」部落差別99.8%、DV防止96.6%）
	「命を大切にする心」を育む教育の充実	「自他を大切にする」教育の実践	各講話、授業等のアンケートで「命、自他を大切にする意識の向上に役立った」の回答を85%以上にする。	ストレス対処教育（ソーシャルスキルトレーニング）、性教育講演会等を実施する。	A	ストレス対処教育（人間関係作りプログラムやストレスマネジメントに関するSC講話、アサーション講座等）を1・2年生は各3回、3年生は1回実施し、各アンケートで98%以上が「役に立つ」と回答した。性教育講演会

						は「役に立つ」と95.7%が回答した。(3年SC講話「自己尊重」99.2%、2年SST「自己尊重98.3%)
いじめの防止等	いじめの早期発見 いじめ根絶への取組	いじめの早期発見と対応	生徒アンケート調査で「いじめを許さない雰囲気がある」の肯定的な回答を増加させる。いじめの事案が出ても早期発見と対応を行い解決に向かう状態を作る。	年3回のアンケート調査を実施しいじめの早期発見に努める。スクールサイン等の情報を利用し早期対応を実施する。アンケート結果から対応が必要な事案については瞬時に対応する。	B	81% (前年77%) が肯定的意見である。これは生徒会によるいじめ防止の取り組みが大きく影響していると考えられる。またアンケートによる早期発見と、それに伴う対応はできたが、解決していない事案がある。
		生徒会によるいじめ根絶の呼びかけ	生徒会によるいじめ根絶集会をアンケート実施後に行う。	生徒会による、いじめ根絶集会を実施し、生徒会発信によるいじめのない学校づくりを全校生徒に意識づけする。	A	人権集会では「熊本県人権子ども集会」の動画を視聴し生徒会による人権宣言を行った。また生徒会が「0」の付く日を「いじめ0の日」と設定し、放送によるいじめ防止を呼びかけた。今後も取り組んでいきたい。
		いじめ対策委員会の活性化	いじめの解消率100%を目指す。学校評価アンケートにおける「いじめをなくす取り組みが行われている」の肯定意見を10%上げる。	学年・生徒指導部・教育相談部と連携し、生徒の変化に速やかに対応し、いじめに発展しないように予防に努める。すぐる等でいじめ防止に関する取り組みの実施を随時配信する。いじめの事案が起きた場合には、解消に向けて各関係機関とつながり、解消率100%を目指す。	B	定期的な委員会の開催だけでなく、いじめの疑いに関する情報を把握した際、直ちに事実を確認し、臨時的に委員会を開催している。学校評価アンケートにおける肯定意見は、昨年度と比べ、保護者・職員は変化なし、生徒は4%上昇であった。いじめ防止に関する取り組みが効果的に機能しているかどうか、委員会で点検・見直しを図りいじめ防止対策の周知徹底に努めていきたい。
地域連携(コミュニティ・スクールなど)	社会に開かれた学校づくり	総合型コミュニティ・スクールによる地域との連携	文部科学省の指定事業に当たり地域連携および情報交換を深め、本校の教育活動への理解と信頼、協力を得る。	生徒の探究的学習に関して、地域との協力体制を整備する。地域人材が本校に出向いて行う活動、本校生が地域に出る活動を併せて20回以上実施する。	A	コーディネーターや、地域人材による講演等併せて40回以上実施した。また、探究活動のテーマ設定等でも御助言いただいた。生徒も研究のために地域に出向いて活動する様子がメディアなどにも多く取り上げられた。
		保護者や地域、関連機関との連携の確立	学校と保護者との連携に関する保護者アンケートにおいて8割以上の好回答を目指す。	秀麗会の学年委員会や常任委員会(総務・広報・進路生活)の活動の充実を図る。担当職員との連携を強化し生徒・保護者のニーズに合った総務活動(文化	B	保護者アンケートでは「学校との連携が取れているか」という項目で「取れている」という回答が72%で目標よりは低かったが、昨年度同様の割合だった。本部役員会の取り組みだけでなく、制服や校則に関する会議、挨拶運

				祭や滞行、挨拶運動等）、進路活動（大学訪問等）、広報活動（PTA新聞「秀麗」の発行等）の内容を充実させる。	動、大学訪問を進路生活委員会、文化祭、滞行、門松製作を総務委員会、広報誌「秀麗」の編集会議を広報委員会で行った。また、今年度は卒業生保護者との情報交換会も実施した。役員である保護者と学校との連携は取れているが、役員ではない保護者をどう巻き込んでいくかが次年度の課題だと考える。
--	--	--	--	---	--

4 学校関係者評価

- (1) 学校運営
 - ・目標と成果がうまくいっている。オープンスクールを生徒主体で運営するなど、リーダーとして活躍するための行動力を育んでいる。
 - ・教職員の時間外勤務時間が減少しない状況である。働き方改革は喫緊の課題であり、管理職と共に意識改革を進め、教職を目指す生徒が増えてほしい。
- (2) 学力向上
 - ・授業でICTを活用するなど学力向上に繋がる素晴らしい授業をされる先生が多くおられ、充実した学習体制が整っている。
 - ・学力向上は学校が課せられた最大の課題である中、学力層の幅が大きく広がっており、学力の物差しについて改めて議論してほしい。超難関大志望者に対する指導は低学年から必要であり、年度当初から計画をしてほしい。
- (3) キャリア教育（進路指導）
 - ・進路に関する情報提供が適切になされている。BYH（探究）の取り組みが充実しており、生徒の個性の伸長を促し、可能性を広げる探究活動になっており、年々良くなっている。
 - ・インターンシップやボランティア、看護体験等、できるだけ積極的に参加してほしい。地域を担う人材養成として、公務員養成コースに代わる対応を検討してほしい。
- (4) 生徒指導
 - ・校則の見直しの取り組みが適切に進められている。アンケートによると、生徒の自己肯定感が高い状態であり、さらに上昇傾向にあることは評価できる。
 - ・SNSをはじめとするスマホ利用の仕方、校則の遵守のあり方について、生徒が主体的に考える指導を継続的にお願いしたい。
- (5) 人権教育の推進
 - ・道徳教育・人権教育の推進、命を大切にする心を育む教育の充実が着実に成果を上げていると感じる。
 - ・スマホに関わるSNSの利用において心ない言葉が飛び交っていることもあり、全ての教育活動の根幹に人権教育が必要である。
- (6) いじめ防止等
 - ・「0」のつく日を「いじめ0の日」と設定し、放送によるいじめ防止を呼びかけるなど、学校と生徒会が協力して取り組んでいる。
 - ・未然防止、早期発見、早期解決だけでなく、生徒会による自発的ないじめ根絶の取り組みについて一層期待したい。
- (7) 地域連携（コミュニティースクールなど）
 - ・総合型コミュニティースクールによる地域との連携を精力的に進められている。卒業生の保護者との情報交換会が開催され、不安を抱えた保護者への情報提供として有意義であった。
 - ・学校と地域が共に活性化する社会づくりがこれからの課題であり、いま育てなければならぬ能力について学校や教職員が理解し、地域と共通理解を図る必要がある。

5 総合評価

本校のスクール・ミッションの中にある「これからの予測困難な時代に、郷土愛とグローバルな視野をもったリーダーを育成する。また目標達成に向けて挑戦する力やリーダーとしてふさわしい行動力を発揮し、人吉球磨地域の課題解決にも積極的に関わり復興と発展を担う人材を育成する。」という目標を達成すべく、職員一丸となってそれぞれの役割を果たしている。本年度の重点目標として、今年度で指定が終了する文部科学省指定事業である「創造的学習方法実践プログラム（人吉球磨ライジング構想）」と「BYHプロジェクト」の推進により、様々な授業改革および探究的な学びの創出に向けた取組を推進してきた。

- (1) 学校経営
 - 満足度の高い学校行事や充実度の高い部活動の様子をホームページに掲載するなど、広

	報活動の充実を図った。自動採点システムを導入するなど、職員の働き方改革を進めているが、年休の取得率や時間外勤務時間について改善の必要がある。
(2)	<p>学力向上</p> <p>学習指導要領の改訂に伴う学習の実情に応じた教育課程に変更をするとともに、今年度から全学年において観点別評価が実施され、評価の客観性と公平性を高めた。「BYHプロジェクト」と称した総合的な学習の時間において、地域課題の解決に向けた探究活動を実践した。</p>
(3)	<p>キャリア教育（進路指導）</p> <p>3年生文系において、就職・公務員・専門学校を志望するクラスが廃止され、大学進学を含めた多様な進路希望に対応する個に応じた指導体制を構築した。進路に関する情報提供だけでなく、すべての教育活動の中で、キャリア教育に繋がる活動を実践した。</p>
(4)	<p>生徒指導</p> <p>毎年見直しを行う校則について、生徒会や秀麗会（PTA）との協議、生徒自身が当事者性を感じるよう生徒総会やクラス毎の検討会を行うなど、「正しい判断力を持つ自律した生徒の育成」を実践している。</p>
(5)	<p>人権教育の推進</p> <p>職員研修や講演会、ストレス対処教育等、人権教育について予定通り実施でき、「自他を大切にする心を育む教育の充実」という目標を概ね達成できている。今後も、時代のニーズに応じた取り組みを実践していきたい。</p>
(6)	<p>いじめ防止等</p> <p>「いじめをなくす取組が行われている」というアンケート項目に対し、肯定的な回答が生徒81%、保護者64%に対し、職員100%という結果であった。生徒の肯定的な回答が昨年度比6ポイント上昇したものの、より一層取組を強化していく必要がある。</p>
(7)	<p>地域連携（コミュニティースクールなど）</p> <p>今年度、文部科学省の指定が終了する「創造的学習方法実践プログラム（人吉球磨ライジング構想）」では、地元の協力者を中心に編成されたコンソーシアム委員会の多大なるサポートがあり、地域と連携できた。本校の学校行事の一つである「滞行」が雨天のため2年連続中止となった。体育祭、文化祭同様、秀麗会や同窓会と連携した活動であり、次年度は予備日を設けるなど、開催できるよう検討したい。</p>

6 次年度への課題・改善方策

【課題1】働き方改革：時間外勤務時間の削減を目指す

（改善方策）

一昨年度から昨年度にかけて、数値面で改善が見られたものの、昨年度から今年度に向け、一昨年度の数値を超える時間外勤務時間であった。昨年度に引き続き、「業務時間削減」「業務内容精選」をより一層進めたり、新たな取組を打ち出したりして職員のワーク・ライフ・バランスの改善を図る。

【課題2】生徒募集：学校の特色と魅力を打ち出し、生徒募集に繋げる

（改善方策）

令和5年度入試では前年比+68名の志願者増であったが、令和6年度以降、志願者減の現状が続いている。人吉・球磨地区の児童生徒数が減少していく中、学校の特色と魅力を効果的に打ち出し、生徒募集に繋げる。

【課題3】学習指導：幅広い学力層の生徒に対する学習指導・進路指導の確立

（改善方策）

年々入学してくる生徒の学力の幅が広がる一方、共通テストでは情報が加わり、また教科・科目によっては問題数・試験時間が増加したり、学習内容が増えたりしている。また、今年度より、就職・公務員・専門学校を志望するクラスが廃止され、生徒の多様なニーズに対応する指導のさらなる確立を図る。